

令和7年度 登録さく井基幹技能者 合格者および試験問題・解答

一般社団法人 全国さく井協会

1. 合格者一覧

令和7年度 登録さく井基幹技能者講習修了試験の合格者は下記のとおりである。

受講番号
25-03-001
25-03-002
25-03-003
25-03-004
25-03-005
25-03-006
25-03-007
25-03-008

なお、合格者には修了証を郵送いたします。

2. 合否判定基準

登録さく井基幹技能者講習修了試験において、正答率 60%以上の者を合格者とする。

3. 修了試験問題の正答

I 共通科目に関する問題

問 1	4	問 2	2	問 3	4	問 4	3
問 5	1	問 6	2	問 7	4	問 8	1
問 9	2	問 10	4				

II さく井科目に関する問題

問 1	2	問 2	4	問 3	3	問 4	2
問 5	1	問 6	3	問 7	2	問 8	2
問 9	4	問 10	3	問 11	3	問 12	1
問 13	4	問 14	2	問 15	2		

4. 試験問題

令和7年度試験問題は次頁以降に示すとおりである。

I 共通科目に関する問題

【問 1】「建設業法における登録基幹技能者の位置づけ」に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**を一つ選べ。

- ① 登録基幹技能者は、主任技術者の要件の1つとして認められている。
- ② 建設業の許可を受けた者が、建設工事を施工する場合は、主任技術者を配置しなければならない。
- ③ 主任技術者は工事現場における工事の施工の技術上の管理をつかさどる者とされている。
- ④ 主任技術者の配置が義務付けられているのは元請工事業者のみである。

【問 2】「公共工事の品質確保の促進に関する法律（以下「品確法」）の目的及び基本理念」に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**を一つ選べ。

- ① 品確法の目的の一つに、現在及び将来の公共工事の品質確保がある。
- ② 品確法の目的の一つに、公共工事の品質確保の担い手の短期的な確保・育成の促進がある。
- ③ 品確法の基本理念の一つに、適切な点検・診断・維持・修繕等の維持管理の実施がある。
- ④ 品確法の基本理念の一つに、災害対応を含む地域維持の担い手確保への配慮がある。

【問 3】登録基幹技能者に求められる能力に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**を一つ選べ。

- ① 原価管理に係る基本的な知識を有し、常にコスト意識をもって行動することができる。
- ② 物事の重要度、緊急度が判断できる。
- ③ 工事の実情に即した作業手順書の作成ができる。
- ④ 自己の立場と状況を第一に考えたコミュニケーションができる。

【問 4】 O J Tは、職場の上司が部下育成のために、日常の作業を通して行う指導・教育のことであるが、次の記述のうち**最も不適切なもの**を一つ選べ。

- ① O J Tは上司の仕事そのものであるとの認識のもとにO J Tを行う。
- ② 部下の能力レベルに合わせた指導育成の目標を立てる。
- ③ O J Tの実施により一般的に業績低下が生じるのはやむをえないとされる。
- ④ 部下が組織外の実態、考え方などに触れて視野を拡大する機会を提供することが望まれる。

【問 5】 施工計画立案のための事前調査に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**を一つ選べ。

- ① 契約条件の設計図書などを十分に理解することにより、建設目的物の工事内容の全体像を把握することで事前調査は省略できる。
- ② 事前調査には、契約条件と現場条件があり、検討を行うことにより施工計画や工事価格の見積等を適正にして工事を成功に導く。
- ③ 工事の失敗と成功の分岐点は、事前調査による問題点を十分検討し、工事にどう反映させるかで決まる。
- ④ 事前調査では、複数人で調査したり、回数を重ねたり、時期をずらしたりして調査することにより、個人的な視点の片寄りをなくし、正確に、詳細に、もれなく調査することができる。

【問 6】 ネットワーク式工程表に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**を一つ選べ。

- ① ネットワーク式工程表には、作業を実線で表示する「アロー型」と作業を丸印で表示する「サークル型」がある。
- ② ネットワーク式工程表の特徴として、作業手順、作業の相互関係が不透明であることがあげられる。
- ③ ネットワーク式工程表を正しく運用することは、時間のムダ、ムラの防止や原価管理にとっても重要である。
- ④ ネットワーク式工程表の破線の矢線をダミーといい、作業の相互関係だけを表し、無作業・無時間（日数）である。

【問7】現場の原価管理では、日々の元請との打合せが重要である。次の記述のうち最も不適切なものを一つ選べ。

- ① 毎日の作業日報で契約内と契約外工事を明確にしておくとともに、毎週あるいは毎月とりまとめて元請に提出する。
- ② 元契約外の追加工事を明確にする。
- ③ 元契約外の常用工事を明確にする。
- ④ 毎週あるいは毎月作業内容内訳を提出するより、工事完了直前に元請に提出する。

【問8】品質管理に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

- ① 品質管理においては、P D C Aサイクルを回し、常日頃から品質向上に取り組むことが重要である。
- ② 設計品質には、特定メーカーの製品名を設計図書に特記したり、施工方法を指定したりして、つくり方を具体的に細かく定める「性能規定」と、詳細な方法は指定せず、求める品質が満たされていれば良しとする「仕様規定」がある。
- ③ 顧客の要求を大きく超えるような品質の実現はコストが高くなりやすく、製品やサービスの競争力を向上させる可能性がある。
- ④ 建設現場の作業は技能者の個々の熟練や経験によって成り立っているため、作業を標準化させる必要はない。

【問9】労働安全衛生法では、労働者・作業員が守らなければならない6つの義務が定められている。次の記述のうちそれに含まれないものを一つ選べ。

- ① 安全状態を保つ義務
- ② 安全衛生教育の義務
- ③ 安全措置を講じる義務
- ④ 危険行動の禁止義務

【問 10】建設業法では、元請負人は下請負人が見積を行うために必要な期間を設けなければならないと規定されている。元請負人が設定すべき見積期間として次のうち最も適切なものを一つ選べ。

- ① 工事1件の予定価格が7,000万円の工事について、見積期間を12日として下請負人に見積させた。
- ② 工事1件の予定価格が3,000万円の工事について、見積期間を7日として下請負人に見積させた。
- ③ 工事1件の予定価格が500万円の工事について、見積期間を5日として下請負人に見積させた。
- ④ 工事1件の予定価格が200万円の工事について、見積期間を1日として下請負人に見積させた。

Ⅱ さく井科目に関する問題

【問 1】 さく井工の掘さく概要に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**を一つ選べ。

- ① パーカッション式工法は、地層が固結した堅い岩盤を掘さくするのに適している。
- ② ロータリー式工法の掘りくずは、掘さく流体により地表に搬出される。
- ③ ダウンザホールハンマ式工法は、硬い岩盤の掘さくには適していない。
- ④ 回転振動式工法は、回転切削と振動破碎機能で掘さくし、掘りくずはエアーコンプレッサーにより地表に搬出される。

【問 2】 掘さく工法におけるパーカッション式工法とロータリー式工法に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**を一つ選べ。

- ① パーカッション式工法は孔底をビットで回転切削することで掘さくし、ロータリー式はビットの打撃で掘さくする。
- ② 泥水の供給はどちらの工法もドリルパイプを通じて注入する。
- ③ 泥水材料としてパーカッション式工法は主にベントナイトを用い、ロータリー式工法は主に粘土を用いる。
- ④ 掘さく深度としてパーカッション式工法は 300m 程度、ロータリー式工法は水井戸では 600m 程度、温泉・地熱井では 2000m を超える深度を掘さくできる。

【問 3】 さく井工事の工程表の作成に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**を一つ選べ。

- ① 計画工程表には、出来高進捗の計画目標数値を記入する。
- ② 実施工程表は、計画工程表に実施工程を記入する。
- ③ 変更工程表は工事が完了した時点で作成する。
- ④ 変更工程表には実施工程を記入し、遅延が生じないように管理する。

【問 4】 金属系ケーシング管に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

- ① 配管用炭素鋼鋼管のうち、内外面に亜鉛めっきを施したものは黒管と呼ばれている。
- ② 圧力配管用炭素鋼鋼管は、温泉等の比較的大深度のケーシング材料として多く使用される。
- ③ 一般構造用炭素鋼鋼管は、管径 300A 以上のケーシングやコンダクタ材料として使用される。
- ④ 配管用ステンレス鋼鋼管は、主として SUS316 系が使用されている。

【問 5】 さく井工事における安全費の積算に含まれるものを一つ選べ。

- ① 不稼働日など保安要員の費用。
- ② 現場ハウス・仮設トイレ設置に要する費用。
- ③ 工事報告書等の書類作成に要する費用。
- ④ 周辺住民挨拶に要する費用。

【問 6】 さく井工事における法定福利費に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

- ① 工事見積書には法定福利費の金額を明記することが望ましい。
- ② 法定福利費とは、健康保険料（介護保険料含む）、厚生年金保険料（児童手当拠出金含む）、雇用保険料のうち、現場労働者の自己負担分を指す。
- ③ 見積額に計上した労務費を賃金とみなし、それに各保険料の保険料率を乗じて算出する方法が一般的である。
- ④ 法定福利費は消費税の対象にならない。

【問 7】作業手順の具備すべき具体的条件に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

- ① 作業の実情に流されないこと。
- ② ムダ、ムラ、ムリがないこと。
- ③ 作業者の高度な熟練や、注意力を必要とすること。
- ④ 施工条件、運転条件、許容範囲にかかわらず適用できること。

【問 8】クレーンの玉掛に使用できるワイヤロープの条件として、次の記述のうち最も不適切なものを一つ選べ。

- ① ワイヤロープ 1 (ひと) よりの間において素線数の 5 パーセント以内の素線が切断しているもの。
- ② 直径の減少が公称径の 10 パーセントをこえるもの。
- ③ キンクしていないもの。
- ④ 著しい形崩れや腐食などが無いもの。

【問 9】溶接作業の注意点に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

- ① 正しいしゃ光保護具を使用し、アークを直視する、身体を露出しない等の措置を講ずる。
- ② 有害ガスによる災害を防ぐには、換気は無関係であり、防じんマスク、エアラインマスク等の使用が必須である。
- ③ 溶接中に引火性物質等を近くに置くときは、ブルーシート等で養生を行う。
- ④ 放射線を使用している場所で溶接作業を行う場合は、常に線量計を携行し、許容量以内かどうかを確認し、定期的に血液検査を行うなどの注意が必要である。

【問 10】 さく井柱状図の作成に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

- ① 地層の境界判定はサンプルで行うことが最も正確であり、電気検層図による補正は必要ない。
- ② シルトを構成する粘性土分は泥水に溶け込みにくく、粘土層との判別は容易である。
- ③ 掘さく中に採取される掘りくずは、ビットで砕かれた泥岩や砂岩、または岩盤であることがあり、すべてを礫や砂と判定してしまうことは誤りである。
- ④ 河川堆積性の砂礫層であれば、砕かれて角ばったサンプルが採取されるが、泥岩や火山岩などの岩盤では丸く円摩されたサンプルが採取される。

【問 11】 ケーシング管挿入および砂利充填に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

- ① ケーシング管の建て込み前にはできるだけ泥水を希釈しない。
- ② ケーシング管が入らない場合はケーシングパイプを引上げ、セントライザを外した後に再度建込を行う。
- ③ 砂利充填の主たる目的は、防砂、スクリーン及びケーシングの固定、集水能力の増大を図ることである。
- ④ 砂利を充填する場合ベルトコンベアやスコップ等を使用しているが、孔壁が崩壊する前にできるだけ迅速かつ一気に大量の砂利を投入すべきである。

【問 12】 就業規則に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

- ① 常時 50 人以下の労働者(パート、アルバイト含む)を使用する事業場は、就業規則の作成や労働基準監督署への届け出は不要である。
- ② 就業規則を作成・変更をする際は、必ず労働代表の意見を聞く必要がある。
- ③ 就業規則の内容は法令や労働協約に反してはいけない。
- ④ 就業規則は作業場の見やすい場所に常時掲示するか、備え付ける、労働者に配布するなどの方法で周知する必要がある。

【問 13】 社会保険および労働保険に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**を一つ選べ。

- ① 健康保険とは、労働者本人について、病気や怪我をしたときや出産をしたとき、亡くなったときなどに、必要な医療給付や手当金の支給をする制度である。
- ② 労災保険とは、業務災害の場合に、国が会社に代わって給付を行う制度であり、通勤時の災害は含まれない。
- ③ 雇用保険とは、労働者が高齢となって働けなくなったときに、生活の安定と就職の促進のための給付を行う制度である。
- ④ 厚生年金保険とは、労働者が高齢となって働けなくなったり、何らかの病気や怪我によって身体に障害が残ってしまったりした場合に保険給付を行う制度である。

【問 14】 水循環基本法について、次の記述のうち**最も不適切なもの**を一つ選べ。

- ① 2014 年 7 月に水循環に関わる施策を総合的かつ一体的に推進するために制定された。
- ② 「地下水の適正な保全および利用に関する施策」を行うことは、国、都道府県知事、事業者、個人の責務である。
- ③ 「地下水の適正な保全および利用に関する施策」には「地下水データベースの構築等」が含まれる。
- ④ 事業者・国民の責務として、「地下水データベースの構築等」への協力が含まれる。

【問 15】 地中熱利用について、次の記述のうち**最も不適切なもの**を一つ選べ。

- ① 深さ 10m くらいのところの地温は、年平均気温にほぼ等しくなっている。四国・九州の南部で 20℃程度、北海道で 10℃程度、東京や大阪では 17℃程度である。
- ② オープンループ地中熱利用とは、地中から熱を取り出すために地中熱交換器内に流体を循環させ、汲み上げた熱をヒートポンプで必要な温度領域の熱に変換するシステムを指す。
- ③ 地中熱交換器でどの程度の採熱・放熱が可能かを調査する方法が、熱応答試験（TRT：サーマルレスポンステスト）である。
- ④ 熱応答試験時に深度毎に温度センサーを設置した場合は、地下水流動状況の把握にも有効である。